

都市日記

朗読劇「都市日記 慶應日吉キャンパス」

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎1階イベントテラス（東急東横線日吉駅下車すぐ）※公開無料、予約等はありません。



演出 松田正隆（「マレビトの会」代表）

出演 「文学I」の学生たち

日時 2011年7月4日（月） 18時開場 / 18時30分開演

問合せ先 慶應義塾大学教養研究センター mail toiawase-lib@adst.keio.ac.jp tel 045-566-1151

主催 文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム / 慶應義塾大学「身体知教育を通して行う教養言語力育成」事業

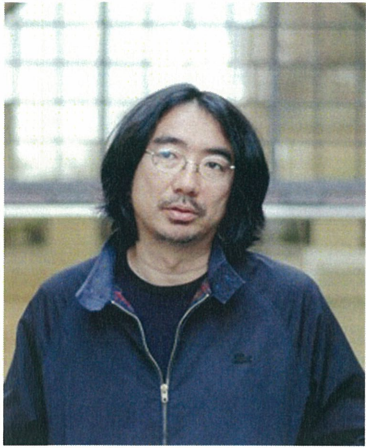
協力 「マレビトの会」

街を読む。街が彼ら彼女らを語らせる。

群集の中で「私」がひとりぼっちだと感じるとき、突然、街と通い合う何かがあるのだ。

—————街と碁石。少女は溝蓋で何もかもを閉じ込めていたのです。屋根の無い電車。生真面目な信号機。大学都市。東京タクシーに乗って。キミは誰だ。石の刻むリズム。学校の教室で。砂漠に点在する街。隣の顔。私は、歩く。し・し・し・し・し。—————
さまざまな都市の声を慶應日吉キャンパスに響かせます。

松田正隆



◎松田正隆プロフィール

1962年、長崎県生まれ。90年～97年まで劇団「時空劇場」代表を務め、劇作・演出を手がける。94年『坂の上の家』で第一回OMS戯曲賞大賞受賞。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞受賞。97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞受賞。98年『夏の砂の上』で読売文学賞受賞。2000年京都府文化奨励賞受賞。黒木和雄監督作品『美しい夏キリシマ』では映画脚本も手がけたほか、『紙屋悦子の青春』は原作として映画化されている。04年5月、「マレビトの会」を結成。マレビトの会の主な作品に『クリプトグラフ』（07年）、『声紋都市—父への手紙』（09年）、『PARK CITY』（09年）、『HIROSHIMA-HAPCHEON：二つの都市をめぐる展覧会』（10年）など。

慶應義塾大学日吉キャンパスで開講の「文学I-読書から朗読そして創作へ」では、「都市」をテーマに、詩や散文を解釈し、朗読し、録音したり発表したりする作業を通じて、読むことから書くこと、書くことから読むことへのフィードバックを実践し、読書・朗読体験を創作に結びつけることを目指してきました。この度4日間に渡り、「マレビトの会」代表の松田正隆さんと制作の森真理子さんをお招きして、「都市」にまつわる他作・自作のテキストを演出・構成するワークショップを行い、その結果を朗読劇「都市日記 慶應日吉キャンパス」と題して発表いたします。初夏の夕暮れ、学生たちの声から立ち上がる「見えない都市」の報告に耳を傾けてみてください。（「文学I」担当 吉田恭子）

■朗読劇「都市日記 慶應日吉キャンパス」

演出 松田正隆（「マレビトの会」代表） 出演「文学I」の生徒たち

■日時 2011年7月4日（月）18時開場／18時30分開演

■会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎1階イベントテラス（東急東横線日吉駅下車すぐ）

※公開無料、予約等は必要ありません。

◎マレビトの会 プロフィール

2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。集団の代表でもある、松田正隆の作・演出により、04年5月に第一回公演『鳥式振動器官』を上演する。2007年に上演した『クリプトグラフ』は、エジプト、中国、インドで巡演されるなど、その活躍は海外にも広がる。2009年より、『声紋都市—父への手紙』をはじめ、『PARK CITY』『HIROSHIMA-HAPCHEON：二つの都市をめぐる展覧会』など、「ヒロシマーナガサキ」シリーズと各都市に取材して創作する「都市日記」シリーズに着手。

上「声紋都市—父への手紙」

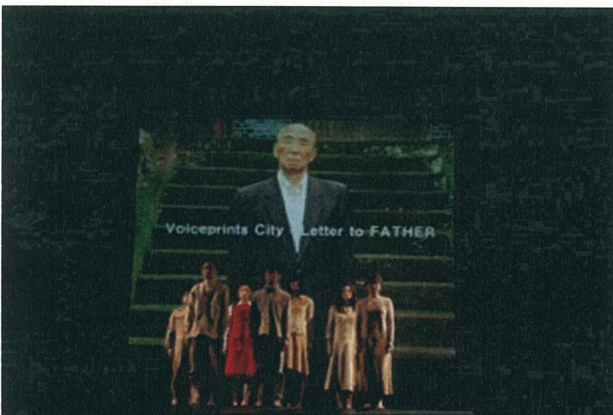
撮影：相模友士郎（Yujiro Sagami）

左下「HIROSHIMA-HAPCHEON：二つの都市をめぐる展覧会」

撮影：青木司（Tsukasa Aoki）

右下「PARK CITY」

撮影：丸尾隆一（Ryuichi Maruo）



だいがくとしまでの地図▽

